

如水会創立一〇〇周年 記念式典・祝賀会

日時 平成二六年一月一六日(日)午後二時
場所 一橋講堂 及び 如水会館スターホール

記念式典

大正三年一月一四日の創立以来、一〇〇周年を迎え、一月一六日(日)午後二時より一橋講堂にて記念式典を挙行しました。

一橋大学管弦楽団による弦楽四重奏、曲目はモーツアルトの「デイヴェルティメントへ長調K.V.138」により華やかに開幕しました。演奏したのは第一ヴァイオリン池田葵さん(社3)、第二ヴァイオリン篠原麻友さん(社3)、ヴィオラ藤田啓也さん(商3)、チェロ須藤ひかるさん(法3)で、日頃の厳しい練習の成果が充分に発揮された素晴らしい四重奏でした。

司会はNHKの高橋さとみさん(平18商)で、如水会行事では久々のプロの淀みない明瞭・軽快なアナウンスにより、恙無

く進められていきました。

松本正義理事長の挨拶に続き、来賓の山内進学長ならびに、洪沢栄一翁の曾孫であり、公益財団法人洪沢栄一記念財団理事長の洪沢雅英様より祝辞を頂戴しました。

理事長挨拶

如水会理事長を仰せつかっております松本でございます。

皆様にはご多用の中、如水会創立一〇〇周年記念式典にご出席頂きまして、心より御礼申し上げます。また、本日は洪沢栄一記念財団理事長の洪沢雅英氏、それから山内学長、蓼沼先生をはじめ、多数のご来賓の方々にもご臨席頂きまして、誠にありがとうございます。如水会理事長として、創立一〇〇周年を、ここ一橋講堂にて皆様とともに祝うことができますことを大変

光栄に存じております。

さて、如水会は現在三三〇〇名強の会員にて構成されており、毎月一回の理事会にて諸般運営事項を決定し、バラエティに富んだ会運営を実行しております。経営内容は会報等を通じて逐一報告申し上げますが、会員の皆様に十分な情報提供ができていますか、また同窓会としてのサービスマニに満足頂いているかは、常に懸念するところであります。

如水会は、横軸には国内外に約一三〇の支部組織があり、縦軸には各年度の組織があり、斜め軸にはサークル・同好会組織があり、これらが如水会を支えています。まさに大企業にも匹敵するような大組織であります。更に、その絆を強固にしていく精神的背景は私も卒業生が学生時代に身につけたリベラルな教養主義と、申西事件以来の伝統である反権力の精神に基づいた母校愛と同郷意識であります。初代理事長の三菱合資会社総理事・江口定条氏から数えまして私は第三九代目になります。この間一〇〇年、財界は言うに及ばず、政界、学界、官界、言論界等、各界にわたり社会のリーダーとして綺羅星の如く、活躍された諸先輩は枚挙にいとまがありません。一橋大学の生みの親といえる渋沢栄一・森有礼両先生は、歩みを続けた一橋大学と如水会の血と涙と栄光の歴史をきつと評価されているに違いありません。特に如水会の命名者であります渋沢先生は、如水会の更なる発展と会員各位の更なる奮闘を望んでおられるのではないでしょう。

さて、若干話は異なりますが、如水会定款第三条に「この法人は、一橋大学の目標と使命の達成に協力し、広く政治経済、社会文化の発展に寄与するとともに、会員相互の親睦、知識の増進を図ることを目的とする」とあります。つまり、我等が母校を全面的に支援することが如水会の第一の目的と明記しております。実際、如水会のイベントには母校支援の内容が多く織り込まれております。勿論、財政的にも大いに援助しております。他の大学のOB・OG会では見られない協同事業が一橋大学と如水会では展開されております。会員各位のご支援ご指導に理事長として改めて厚く御礼申し上げます。母校が文理共鳴も念頭において社会科学の雄として世界に冠たる大学に飛躍するため、如水会は総力をあげて大いに支援をして参りたいと思えます。

ここで、増田四郎元学長の我等が母校の普遍的特色を示した一節をご披露申し上げたいと思えます。

「戦後の大学は一般に個性が薄くなりつつあるが、私はそれぞれの大学にそれぞれの個性がなくては面白くない。幸い一橋は個性豊かな大学だと自負している。反官僚主義。反形式主義。民主主義。自由主義の伝統。庶民的。家族的。団結心が強い。まとまり。血と涙と栄光の歴史がある。これは一橋の個性である。大いに伸ばしていくべきだと考える」

私はこの伝統こそが「キャプテンズオブインダストリー」へと繋がっていくものと信じております。会員各位には従前に

も増して物心ともにご支援をお願い申し上げます。

更に本日皆様にお願ひ申し上げたいことがございます。(恐れ入りますが、山内学長お立ちくださいますか)既に皆様ご承の通り、山内進学長は、四年間の任期満了に伴い、今月末をもって退任されることとなりました。就任時の「プラン135」が標榜する「スマートで強靱なグローバル一橋」を掲げ本学の発展にご尽力されたご功績は誠に大きく、皆様と共に感謝の意を込めて盛大な拍手をお贈り申し上げたいと存じます。(拍手)

学長、皆様有り難うございました。(ご着席ください)
(恐れ入りますが、蓼沼先生お立ちくださいますか)

蓼沼先生は山内学長より今回、重責を引き継がれ、来月早々ご就任の予定です。大学の更なる発展のため、先生のご活躍を一同ご期待申し上げます、ここで激励の拍手をお贈り申し上げたいと存じます。(拍手)

蓼沼先生、有り難うございました。(ご着席ください)

さて、「Josuikai Forever!」「Hitotsubashi University Forever!」この合言葉をもちまして結びに代えさせていただきます。きつと次の一五〇周年、二〇〇周年記念式典は一段と盛り上がることを私は確信しております。ただ、「Time flies like an arrow.」とは申せ、本日ご列席の皆様のご出席はさすがに少々難しいかと思われませんが、「We are in the same boat.」また相まみえんことを祈念致しまして、開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

来賓祝辞(要旨)

一橋大学長 山内 進氏(47法)

如水会創立一〇〇周年、おめでとうございます。

本日は、学長であると同時に如水会員である私にとって、祝辞を述べさせて頂くことはこの上ない喜びであり、また最高の名誉であります。

語り継がれてきましたように、如水会は単なる同窓会ではなく、母校を守り後援することを第一の使命としております。本学の前身である東京高等商業学校は、申西事件の危機を乗り越え、商科大学を目指しておりましたが、その後の道は平坦ではありませんでした。東京高商の教育研究の内実に係わるものでもありました、大学とは何か、という問題です。一橋大学学園史刊行委員会『一橋大学百二十年史』に次のような記述があります。

「申西事件をきっかけに学内にアカデミズムの基礎を固めようとする動きが、深く、静かに進行していく。アカデミズムでなければ、大学昇格は望めない」。東京高商が海外に派遣した福田徳三や佐野善作などの俊英たちはこのことに深い関心を持ち、専門的高等商業教育機関以上のものを目指していました。

福田徳三はこう言っています。「ベルリン宣言を書いたのは私だが、一、我々は一橋がユニフェルシタス・リテラルム即ち総合大学たらん事を期すといふ事と、二、この希望実現をたれの力も借りずに吾々の力でやるといふ決意とが示してある」。

ここには、後に成立する東京商科大学の極めてユニークな特性である、自由主義的、教養主義的商業教育、人文・社会科学全般への志向を読み取ることができます。また東京高商は既に多くの実績を上げていました。例えば、一九〇三年から一二年にかけての就職状況を見ると、三井物産を筆頭に、日本郵船、日本銀行、満州鉄道というように枢要な企業に多数の卒業生を送り込んでいました。また、一九一四年の外交官・高文試験で合格率トップの座を占めていました。最近の司法試験合格率トップを思い起こさせます。もちろん教育は、数だけでなく、質をその評価にどう反映させていくかが大きな課題です。

東京高商はこのように帝大に比肩する成果を示したのですが、文部省はその実力を認めつつも、帝大への取り込みを考えていました。一九一三年に新たに出された案は、帝国大学法科内の商科と経済科を東京高商と合併して商科大学を創り、これを東京帝国大学の一分科とするものでした。

東京高商はこれに反対し、あくまでも高商の単独昇格を主張し、文部省も原案を撤回しました。如水会が生まれたのはこの頃でした。母校は立派に発展しているが、常に危険にさらされている。それを後援することが大切だ、という観点から、非常にユニークな、同窓会を超えた如水会が一九一四年に誕生したのです。「如水」という言葉の含蓄や、卒業生同士の交流には、実に見事な精神性があると私は感服しております。私は如水会の内外の支部からお誘いを受ける機会が多く、そこで感心する

のはその向学心と知性です。必ず講演などで新たな勉強をしてから交流に入ります。交流においてもさわやかな水準の高い談論が活発で、まさに如水会の面目躍如だと感じております。

如水会の後援もあつて、一九二〇年、東京高商はブラクティカルであると同時にアカデミックな性格をもった東京商科大学に昇格しました。そして、一九四九年、新生の社会科学系総合大学としての一橋大学になりました。この間、豊かな教養と専門性を備えた卒業生は各界で活躍し、戦前よりもより戦後日本の経済界のリーダーとなり、如水会を通じ母校の発展に大きく貢献してくださりました。

如水会が大学に貢献した事業は、最近の事例に限っても、大学一〇〇周年では図書資料の充実、一二五周年募金では国際学園構想による小平キャンパスの整備、これにより、小平キャンパスは一橋の管理下に置かれ続けることになり、国立への移転もスムーズに実施されました。更に、大々的な募金によって行われた兼松講堂の修復でわが一橋のシンボルに磨きがかかり、キャンパスが一層端麗となりました。また、佐野書院をご寄贈頂きました。瀟洒で豪華な応接施設を利用できるようになったのも如水会のおかげです。

更に明治産業株式会社様及び明産株式会社様のご賛同も頂き、学生の海外留学に多大な支援を頂いております。今でこそ、留学、留学と言いますが、一年間の留学を全面的に支援するこの海外派遣留学制度は一九八七年に始まっており、まさに画期的

かつ先駆的で、これがあるから一橋に来た、という学生が少なからずいるほどです。この制度で留学した学生は九〇〇名を超え、また海外からの留学生に対する物心両面にわたる支援も約七三〇名という国立大学では留学生比率二位の大きな原動力となっています。

また、植樹会の活動も忘れることはできません。お陰さまでキャンパスがますます一橋らしい雰囲気を漂わせております。更に如水ゼミや社会実践論など教育に対する人的支援も頂いており、本学の教育の質と個性を高める上で、非常に有益です。

大学基金への全面的ご協力は今後の一橋の発展にとって決定的に重要な意味を持っております。一橋講堂も一旦は国に回収されていましたが、二年ほど前に基金を使って再取得しました。都心の如水会館の隣に本学の拠点を持ち得たことは、一橋大学の将来にとっても極めて重要なことと考えております。基金への募金も引き続きよろしくお願いいたします。

これからの数年は一橋大学の今後の命運を決めかねないほどの重要な時期であると私は考えています。大学も新体制のもとで精一杯努力しますので、大学の支援を第一義とする如水会の一層のご支援を切にお願いしたいと思います。

如水会の今後の一層の発展を祈念し、創立一〇〇周年を心からお喜び申し上げ、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

公益財団法人渋沢栄一記念財団 理事長 渋沢 雅英氏

如水会の一〇〇周年記念式典にお招きを頂き、ありがとうございます。

如水会の創立者の一人であり、名付け親でもありました渋沢栄一は、大変粘り強い人で、一度決めたことは決して諦めることなく、最後まで志を貫きました。商法講習所の設立は、明治八年、栄一がまだ三五歳の時でしたが、昭和六年に九一歳で亡くなるまでの五六年間、いつも学校のことを思い続け、何か問題が起きると、その都度積極果敢に対応して参りました。その経緯は、数百ページに亘る文書として、『渋沢栄一伝記資料』に掲載されております。大正一五年一月一四日には、震災後の如水会館の再建を記念して、栄一の胸像の除幕式が行われました。栄一は同志の皆様の長い間のご苦勞を思い、涙を流しながら、「この像が余りによくできているので、どちらが本当の自分か分からない」などと言って、心からの喜びと感謝の言葉を述べております。

没後八三年を経た今も、栄一の人生は、世界的な関心と呼んでおります。私どもの財団では、明治初年に栄一が提唱した合本主義という経済理念の考え方について、一橋大学の先生方をはじめ、英米仏三国の一流の研究者をお招きして、広範な国際研究を展開しております。昨年（平成二五年）の一月にはパリのOECDの本部で、また今年の春には東京商工会議所でその成果を発表し、『グローバル資本主義の中の渋沢栄一』と題

する書物も刊行されました。こんにち、もし存命であれば、當時と変わらない情熱と意欲と生命力にあふれ、如水会の一層のご発展を切に願っているに違いないと思います。

大変簡単でございますが、お祝いの言葉とさせて頂きます。今日は本当にありがとうございます。

* * *

歳前工業会及び白寿を迎えられた石澤芳次郎さん（19学）からの祝電披露の後、一橋大学へ記念品の贈呈が行われました。

記念品は一橋大学基金への寄附五千万円で、大学は、国立大学改革強化推進補助金にこの寄附金を加え、国立西キャンパス別館の階段教室を改修・復活させる計画です。改修後は、「如水会一〇〇周年記念インテリジェントホール」と命名される予定で、最先端の機器等を備えた施設の様子が上映された後、松本理事長から山内学長に目録が贈呈されました。

休憩の後、記念演奏会が始まりました。最初に登場したのは篠笛奏者の狩野泰一さん（61商）。佐渡に暮らしながら、国内だけでなく世界三〇カ国での公演活動等で活躍されており、先ずはソロで「朱鷺の舞」。続いて、狩野さんと共に和太鼓集団「鼓童」にて活動された和太鼓奏者の金子竜太郎さんの「チャップソロ」。お二人の笛と担ぎ桶太鼓の競演で、「KA!」たとえば「やし」と続き、力強い笛の音と和太鼓の迫力に会場は圧倒されました。

一橋観世会による能舞は、溝口侃さん（商3）、久保田祥子さん（社2）、大家寛幹さん（法3）、吉田彩乃さん（社4）、上結かおるさん（社4）、亘理淳さん（法4）の学生六名に木村のはらさん（平22社）、森美沙紀さん（26社）の卒業生二名を加え、仕舞「鶴亀」、舞囃子「敦盛」及び附祝言が披露されました。重要無形文化財保持者の津村禮次郎さん（39経）に指導を受けている選りすぐりのメンバーで、格調高い舞と地謡、囃子方により、由緒正しき日本の伝統芸能の粋を充分に披露してくれました。

続いて、一橋大学男性合唱団コール・メルクルのOBが中心となって結成されたマーキョリー・グリーククラブによる大合唱。他大学にも同好有能の士を募っており、舞台いっぱいに団長の藤原尚さん（42商）、副団長の小室滋さん（39経）始め、五三名の紳士がずらりと並び、永井宏さん（35法）の指揮で、美しい日本の歌「からたちの花」、勇壮な日本民謡「斎太郎節」、愛唱歌「野ばら」に続き、アイヌ民謡の「輪舞」、そして最後は「一橋の歌」と力強く美しい歌声を披露してくれました。

舞台上のスクリーンが再び開き、如水会の「一〇〇年を振り返る」が上映されました。この記録映像は、元副学長の田崎宣義さん（46経）と学園史資料室の大場高志さんから多大なご協力ご助言を頂き、大学の歴史を踏まえ、大学の存続のために如水会が一致団結して立ち上がった様子等、一〇〇年にわたる活動を隅々まで検証して、株式会社NHKアートにロケを含めて

制作依頼したものです。

この作品は、松本理事長の挨拶を取り込んでディスクにコピーし、国内外の全支部にお届けしますので、記念式典にお越しになれなかった会員の皆様は、是非、支部総会等でご視聴ください。また、クラス会、年度会にも貸し出しを行います。

締めくくりは、神田蘭さんの講談。神田蘭さんは、これまでも如水会の新年会や講演会等で「商法講習所の創立」「申酉事件」「籠城事件」等、一橋大学に関わる講談を数多く発表されています。今回の「如水会百年物語」の原作は酒井雅子さん（57法）で、映像を交えながらの蘭さんの軽妙な語り口に会場は大受けでした。更には「地上の星」の歌も飛び出し、大盛況のうちに記念式典は幕を閉じました。

なお、記念式典全般については、音響、照明、映像、演出進行等、株式会社電通テックに依頼し、完璧に運営されました。

祝賀会

午後六時より、場所を如水会館スターホールに移して祝賀会が開催されました。

司会は馬場大智さん（商2）と加藤彩花さん（商2）で、二人とも新入生歓迎委員を務めたことから、今回の大役の白羽の矢が立ち、息の合った進行を見せられました。

松本理事長の挨拶に続き、ご出席者のうち最長老の水田洋さん（16学後）と兼子春三さん（16学後）に出席者代表挨拶を頂きました。株式会社東京會館から提供して頂いた樽酒の鏡開きは、松本理事長、山内学長、高萩光紀前理事長・相談役、水田洋さんと神田蘭さんの五名が新調された如水会の法被を晴れやかに着て行われました。一〇〇周年記念の一合枿が用意されていました。あつという間になくなり、受け取れなかった方は大変残念そうでした。

続いての乾杯の音頭は高萩相談役にお願ひし、会場は一気に盛り上がりました。会場には、如水会々員が蔵元を継ぎ、如水会物産ネットにてもご案内している蔵元の酒一〇銘柄を取り寄せ、飲み比べをする出席者で賑わっていました。

ずらりと並んだ日本酒は、北から順に、①旭川から、男山の「男山」、②岩手の桜顔酒造の「飛天抄」、③天童から、水戸部酒造の「水戸久一郎」、④白石、蔵王酒造の「蔵王」、⑤金沢は、やちや酒造の「加賀鶴」、⑥千葉県山武から、梅一輪酒造の「梅一輪」、⑦京都、月桂冠の「伝匠月桂冠」、⑧同じく京都から、玉乃光酒造の「備前雄町」、⑨福岡から、綾杉酒造場の「純米原酒」と「一酌散千愁」、⑩同じく福岡から、石蔵酒造の「如水」と「祝いめでた」でした。

スターホールと二階ロビーは四〇〇名近い出席者で溢れ返り、飲食、歓談が続きました。宴もたけなわ、大詰めで、いよいよ一橋大学体育会応援部の登場となり、竹田光佑主将（社4）率

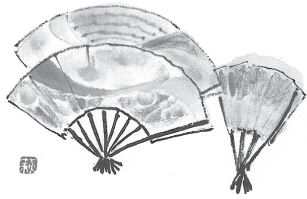
いる精銳が所狭しと力強い演舞を披露、一〇〇周年にちなんだ祝辞も絶妙で、場は最高潮に達しました。

ここで、満を持して高橋宏さん（31商）が煌びやかな陣羽織を着用して登壇。應援部OBや東京校歌祭常連出場者等が一橋の鉢巻きを締めて囲むなか、朗々と口上を述べた後、会場の全員で一橋会々歌「長煙遠く」を斉唱して閉会となりました。

記念式典、祝賀会の出席者は、片方のみの方を含め、四三一名でした。

なお、当日は日曜日でしたが、このあと午後一〇時三〇分まで一橋クラブが特別営業し、飲み足りない方、話し足りない会員等で大賑わいでした。

（事務局 部長 田村文明）



出席者（敬称略。肩書きは当時のもの）

来 賓

洪沢栄一記念財団理事長 洪沢雅英

一橋大学長 山内進（47法）

一橋大学

理事・副学長 大芝亮（51法）、理事・副学長 落合一泰、理事・副学長 小川英治（56商）、副学長 高橋滋（61博法）、大学院経済学研究科長 石川城太（58経）、大学院法学研究科長 青木人志（59法）、大学院社会学研究科長 町村敬志、大学教育研究開発センター長 筒井泉雄、大学院経済学研究科教授 蓼沼宏一（57経）、大学院経済学研究科教授 大月康弘（60経）、キャリア支援室特任教授 西山昭彦（50社）、学長特別補佐 関根敏正（52商）、企画調査役 笹川千恵子、事務局長 林一義、総務部長 木下孝洋、総務課課長代理 平沼智恵、総務課総務係長 落合俊一、総務課基金事務局 大川佳吾（平24経）、評価・広報室長 野上俊夫、学園史資料室 大場高志、財務部長 山崎英司、財務課長 千葉直樹、一橋講堂管理室長 長岡篤、施設課長 三好毅、学務部次長 林直道、教務課長 小栗孝明、学生支援課長 平沼吉明、学術・図書部長 上原正隆、学術情報課長 鈴木宏子、一橋大学後援会事業部長 貝田辰雄

如水会

松本正義理事長(42法)

会員・兼子春三、水田洋(16学後)、河西郁夫(22学)、三浦由雄(22門)、長田五郎、小山清吾、中村敬太郎(25学)、本多完五郎(26学)、大澤俊夫、堀江昭、安川三四吉(27学)、木村幹、廣島昭三、村山勇一郎(28学)、丹治清吉、仁平幸男、橋本昭次(28経)、天野文彦(29法)、荒川忠、小林一平、中島靖之、中山光雄、松尾弘人(30商)、天野順一、飯島満、石井徹、小沼恒雄(30経)、石和田四郎、尾崎俊一、尾身幸次、高橋宏、野村祐吾、松丸鉦市、山本千里(31商)、富来昌彦(31経)、近藤信行、吉崎英輔(32商)、天野馨、竹内啓介(32経)、梶原徳二(32法)、宇田川正二、栗田康(32社)、有馬賢次、仁科恵敏(33商)、大津寄雄祐、永田泉(33経)、岩元正和、須貝政男、野原隆昭(33法)、小林博、重松成行(33社)、平野真、藤本淳三(34商)、櫻崎規夫、早瀬勇(34経)、安崎暁、関穎介(34社)、岡島進一郎、篠崎博、関島和夫、高井秀雄、田村啓一郎(35商)、石井暉雄、植松修三、近藤克彦、立川昭夫、田中政彦、茂木七左衛門(35経)、久保一郎、早乙女正巳、白石武夫、永井宏、星加雄一郎(35法)、坂井孝之、沢井三雄、鈴木秀一(35社)、住田笛雄(36商)、石原隆、小澤純一、佐藤栄二、高橋文夫、田口和義、長尾明信(36経)、菅澤武彦(36法)、加藤孝雄、野々垣勇、福島明男、松岡武、矢野隆夫(37商)、朝日智三、藤木隆三、矢代裕康

(37経)、寒竹昇、森下一乗(37法)、寫根一夫(37社)、井上清彦、長屋伸良、野村覚蔵、光瀬靖彦(38商)、新田晴男、旗野友夫(38経)、石坂芳男、井爪輝明、川崎忠一、田中弘(38法)、山口善弘、渡邊紀征(38社)、木村希一、小室滋、高橋衛(39経)、高萩光紀、則松久夫、土師野良明、吉岡省吾(39法)、石林紀四郎、大平政弘、大矢鉄雄、鈴木徹郎、田崎謙一郎、長谷川輝夫(39社)、小澤莊二(40商)、岡井紀道、瓦林秀嗣、吹野博志、松島誠一、三浦康男、八藤南洋(40経)、倉橋宣武、小塚埜武寿、宮村昊、森一将(41商)、安芸洋一、三枝邦夫、花井義武、山口篤一、渡邊徹(41経)、神田芳雄、中山信正、吉田裕敏(41法)、飯野良吉、江口栄治、椛浩、近堂一郎、関統造、田中宣秀、鶴岡坦、吉田佑一(41社)、津田正道、藤原尚、前嶋修身、松田次郎(42商)、尾崎博、下村肇、月崎博章、中尾丈夫、福島清彦、三宅朝太郎、山崎隆一郎(42経)、永井孝彦(42法)、高原正靖(42社)、池田信彦、杉山武彦、増田正敏、吉村尚憲(43商)、軍司育雄、角田清、丸山達雄(43法)、谷川達夫(43社)、染谷香、松島知次(44商)、神永信一、陶山建二、高野直人、山本亘苗(44経)、保坂証司(44社)、田中襄一、野老正明、村越文理(45商)、矢口和彦(45経)、橋本民生、蛭田政男、湯川諠(45社)、呉島俊良(45修経)、菊竹秀敏、黒田修一、駒明夫、鈴木堅仁(46商)、仙頭靖夫、田崎宣義、仲田裕一、村本卓生(46経)、金子彰(46法)、田尻恵保(46社)、岩城悦子、

久内莊一郎、古川誠志(47商)、浅野勉、高野博信、渡辺紳一(47経)、斎藤昭、畠山かや子、宮沢信一(47社)、栗原俊記、横田勝介(48商)、岡田円治、斎藤徹(48経)、上田良一、高橋治夫(48法)、高橋忠明、田村文明、吉田裕、渡辺善彦(49商)、近江屋誠一、河村進、田中正昭(49経)、畠山雄三郎(49法)、緒方徹(49社)、伊藤純一、太田道彦、岡田孝一、川井宏一、前田洋(50商)、片山修、千葉巖一郎、二宮洋二、萩原弘志、樋口典昭、淵岡彰、三神正博(50経)、高橋正明、田原賢明、辻朋子(50法)、亀井滋、銭村政二、秦哲也、羽鳥光秋(50社)、濱田聡(51商)、松井道夫、松本博(51経)、雑賀大介、白地浩三(52経)、森田喜信(52法)、大庭雅志、小田切康子(53法)、尾花秀章(53社)、杉森務(54商)、宇留間和基(54社)、鈴木政士、樋口哲彦(55商)、渡邊桃伯子(55経)、増田宰、森田徹(55法)、小野澤康夫、鹿島かおる(56商)、富田茂之(56法)、山下実(57商)、大倉雄一、酒井雅子(57法)、牛尾文昭、松田美恵子(57社)、斎藤一彦(58法)、早船光昭(59商)、引頭麻実(60法)、清水正樹、野村由美(60社)、狩野泰一(61商)、岡俊子(61社)、杉本潔(62経)、藤岡高(62社)、古賀直人(63商)、田所亮子(63経)、豊田優美子(63社)、田内直子、堀田武靖(平1商)、鈴木誠司(1経)、石黒美幸(1法)、新田武(2経)、白田英生、真喜志宏美(3商)、中康二(3経)、児玉玄(3法)、今中明子(3社)、佐野智恵子、宮川祥子(4経)、鶴由貴(4法)、

和久友子(5商)、永井隆寛(5法)、片桐春美(5社)、森田洋平(7経)、西條達(8社)、大曲哲雄(9社)、新田聡(10経)、浦部明子(10法)、石田直久(11社)、中込剛(12経)、井上永徳(14商)、長壁恵子(15商)、康本昭赫(16社)、梅津貴宏(17商)、高橋さとみ(18商)、山本祐也(20社)、木村のほら(22社)、岩瀬英一郎(22修商)、安永勇太郎(24経)、宮首夏実(25法)、陳廷瑀(26商)、森美沙紀(26社)、大原諄也、藤原聡史(商4)、斉藤万純(経4)、武藤里美、巨理淳(法4)、上結かおる、本谷瑠衣子、吉田彩乃(社4)、藤田啓也、溝口侃(商3)、坂口稜、眞崎護(経3)、大家寛幹、岸直之、須藤ひかる、妹尾美咲、橋菜歩(法3)、池田葵、木下七海、篠原麻友、島田葦、城和世人、原澤大地、前川拓朗、三宅祥平(社3)、面川優里、加藤彩花、鬼頭孝明、佐藤和香、馬場大智(商2)、小林拓磨、二宮聡一郎、堀池尚希、村田瑠璃子(経2)、松田和輝(法2)、牛込望、岡部光、門田祥江、久保田祥子、高島麻未、長谷川賢一郎、福井元貴(社2)、古口紗恵、濱原三季(商1)、宮本裕樹(経1)、松野泰知(法1)、加藤和也、清滝雅、堂本強介、山口豪輝(社1)

